

Principal Correspondence

Happy New Year



積極的自制心育成の年にしましょう

あけましておめでとうございます。

様々な困難の中で始まった昨年4月からの学校ですが、先生方の創意工夫(つまり創造性)と保護者の皆様のご協力により、課題を乗り越え新しい年を迎えることができました。今年が丑年!「丑年は我慢(耐える)」「発展の前触れ」をあらわす年になるそうです。そこで提案!リリーベール小学校の今年「積極的自制心を養う年」にしたいと思うのです。

拙著にも書きましたが、8歳頃から知能検査の点数は変動しなくなります。

IQが幼少期に高い子は高校生でも高い。しかしそれは成績とは別で、自己抑制力が高い子はIQに関わらず忍耐強く取り組むので成績は高くなります。しかもその自己抑制力は20歳過ぎまで可塑性が続くので(つまり自己抑制力の臨界期は20代前半)そこまですなりの割合で育てることができます。

自制心は筋トレと同じように育てることが必要です。自制心は、何かを継続的に繰り返すことにより向上します。例えば学校ではよく「立腰」と言って背を伸ばして座ることをします。このような、意識しないと出来ないことを継続的に行うことで、自制心が鍛えられます。「継続と反復」が大事です。習い事もそのためなら有効です。細かく計画を立て、記録し達成度を自分で管理することは、自制心を鍛える上で有効だと多数の研究で報告されています。当校では様々な場面で意識して参りたいと思います。

**野球のイチロー選手はこう言いました。「結局は細かい事を積み重ねること
でしか頂上には行けない。それ以外には方法はないということですね。」**

顕著な功績を収めた人は皆粘り強さの塊のような人でした。大きな成功を収めた人は断固たる強い意志があり、第一に並外れて粘り強く努力家でした。第二に自分が何を求めているか(方向性=目的)が定まっていました。小学生時代はワクワクドキドキをため込む時期です。

**硬いつぼみにいつか大きな花が咲くように
2021年丑年は、将来の本番に備えて
「積極的自制心を養う年」にしていきましょう。**



Principal Correspondence

親切な子が得るものは



あけましておめでとうございます。

コロナ禍でたくさんの変化と忍耐が求められるのですが、育脳学童クラブは文字通り脳の発達に即した環境と活動を工夫して、特色ある、明るく楽しく、ためになるアフタースクールを目指してがんばります。

フランスのアルガンとカユックの二人の学者が面白い研究をしています。彼らが言うには「他人に親切にする」という躰を受けて育った子どもは、そうでない子どもより大人になって平均30万円年収が高いと言うのです。身もふたもない話ですが人生は大まかにギブ&テイク（GIVE AND TAKE）です。人に親切にすれば、たとえ相手からその親切の見返りがなくとも、その人柄は人望になり、思わぬところで周りが助けてくれたり、認めてくれたりする割合が高いのです。「たとえ短期的に損をしても、他の人に正直に親切にした方がトータルでその人が得るものが大きい。」ということは宗教の言葉のようですが、科学的に心理学で証明されています。

同じくクラスでみんなに好かれる子と、あまりそうでない子を見ると（それは性格ではなく）親の子どもへの接し方が反映していること。これは教師の間では常識です。親が世間を斜めに見て馬鹿にしたような態度をとったり、言ったり、上から目線で威圧的に子どもに接する家庭では、子どもも学校で同じようなふるまいをしがちで、嫌われるもとになります。



一方、笑顔で子供を受け入れ、謙虚で親切な姿を見せる家庭の子は、その振る舞いゆえに人気者で、さらに年を重ねると人望までついてくる様になります。

子どもの生涯の幸せのためにも幼少期のこうした育ちは大事です。この時期の成長はやり直しの効かない宝物なのです。

丑年は「我慢と発展の前触れ」の年だそうです。
新年からまた新しく元気にがんばりましょう。

